

「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」第3回選定地区訪問

「山添村波多野地区活性化協議会」（奈良県山添村）

平成29年1月17日（火）、第3回「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」に選定された奈良県山添村の「波多野地区活性化協議会」を訪問し、東会長はじめ協議会メンバーの活動の概要や今後の取組などについてお聞きしました。以下にその内容を紹介します。

（活動概要）

○農業体験で茶畑を再生 ～ 世界一の紅茶・紅薈（べにほまれ）復活 ～

廃園した旧春日保育園舎を活動拠点に、耕作放棄地を借り受け、茶摘み・手もみ体験等の農作業体験活動を通じた農地再生活動を実施するとともに、再生した茶園で生産された茶葉から紅茶の製造・販売まで取り組み、かつてロンドンの品評会で最優秀と評価された紅茶の品種「紅薈」の復活を目指しています。



茶摘み体験の様子

○取組活動の動機・背景

山添村の主産業である茶生産が後継者不足や農業環境の悪化によって放置され、背丈ほどに伸びた荒廃茶園が村内各処で急増しています。また、荒廃した茶園は猪などの害獣の発生を助長して農家の生産意欲の低下や住環境の悪化にもつながっています。こうした現状を打破するために私達の手で実際に行動



再生した茶園

を起こしてみようと、平成24年から地域に住む有志グループが都市住民との農業体験を通じた農地の再生に取り組みだしたのがスタートです。水田であればまだ誰かが代わりに耕作してやろうかという者がいるが、茶畑となるとそういう訳にはいかないので、だったら自分達で荒廃茶園を借りて茶の生産から販売に至る実証を行いつつ、山添村に魅力を感じ農業を志す若者を受入れ、ここで研修を受けた就農者を育ていこうという試みとしたのです。

○取組の具体的活動について

私達は交流から始まり最終的には定住につなげていくということを念頭において活動しています。住民の皆さんと農業体験や地域に伝わる食の体験を通して山添村の魅力を発信して、山添村に住んでみたいという人が出てきた時に、仕事が無ければやはり住んでもらえないので、就農に至るまでの支援も行っています。現在、村内の茶畑 200ha のうち、せめて国営で農地造成を行った茶園だけでも荒らさないようにしていきたいということで活動を行っています。



交流拠点となる旧春日保育園舎

廃園した旧春日保育園舎を活動の基地として、周辺農家から50㍍の耕作放棄地を借り受け、紅茶生産を行い販売までのモデル経営を行いつつ、都市住民を対象とした農業体験イベントを実施しています。

農業体験イベントとしては、茶葉の手摘み体験や大きな特色である紅茶の手揉み体験を実施しています。以前までは発酵に時間を要し1日体験では困難であった紅茶の手揉み体験が、インストラクターの研究努力によって体験メニューとして提供することが可能となり、体験レパトリーの拡大が大きな魅力として参加者の増加につながり、紅茶ファンが急増しています。また、お茶の体験イベントに限らず、いろんな農作物の植付けから収穫体験、さらに食育の一環として収穫物を使った地元の女性達の指導による郷土料理の体験を地域や都市部の住民を対象に月1回程度の頻度で実施しています。



お茶の手もみ体験



地元女性指導による郷土料理体験

お茶の生産・加工販売は再生茶園を活用し、農薬や肥料は一切使わない自然栽培に取り組み、加工においては地域で摘み取った茶葉をお茶のコーディネーターである健一自然農園の伊川氏に紅茶として製造を委託し、安心安全な「ハイランドティー」として独自性の高いパッケージに山添村の観光地のポストカード添え、地域の特徴をアピールし

た「和紅茶」として商品化しました。現在、村内2ヶ所（山添村観光協会、茶の里映山紅レストラン）で販売し好評を得ています。早速、今回選定していただいたのを機に、『ディスカバー農山漁村の宝』のロゴマークを商品ラベルに使用させていただきました。これから全面的に商品PRに活用していきたいと考えています。



自然栽培による茶葉を使用した「和紅茶」の商品

また、最近の新たな試みとしては、借り受けた茶園が、実は、昭和33年にロンドンで行われた紅茶品評会で最優秀となった森永製菓の紅茶園であったことが判明（旧波多野村史に明記）し、さらに昨年の調査で偶然発見したその当時の紅茶種を守り育てる取り組みを「紅譽奇跡の復活プロジェクト」と位置付け、地元農家の挿し木名人の協力を得て今年度1,000本を挿し木しています。今後、「紅譽」を計画的に増やして世界一の紅茶づくりを目指し、本格的な「和紅茶」の生産に取り組んでいく考えています。



紅譽奇跡の復活プロジェクト(挿し木作業)

そして、次のステップとしては村役場と連携して、「和紅茶」づくりを実践してくれる後継者の確保に繋げていきたいと考えています。現在、「かすががーでん」で経験を積んだ研修生が村内に留まって「和紅茶」農家を目指して研鑽中ですが、地域農業の担い手として期待し、支援していきたいと考えています。

平成28年度の活動体制としては、会長を含めボランティアスタッフが3人、農業研修生として1名、お茶専門のコーディネーターである伊川氏を迎えた5名体制で活動を推進していますが、来年度も地域おこし協力隊等を募集し、更に活動を強化していきたいと考えています。

○取組による効果について

農業体験イベントをマスメディアに取り上げていただくこともあり、リピーターも定着して大勢の皆さんから体験内容について好評をいただいています。また、地域伝統料理体験は大勢の皆さんが興味を持って参加をいただいています。SNSに掲載されることも多くなり、イベント期間外にも山添村を訪れる人も増え、村内外での知名度も高く

なってきたと実感しているとともに、新たな地域の特産品として「和紅茶」ブランドの復活に村民から熱い期待が寄せられています。

日常的な作業として、お茶の手摘みや周辺の草刈り等軽作業を近隣の高齢者に依頼しているのですが、新たな雇用となり高齢者の生きがいがつくりとして波及効果となり、非常に喜ばれています。



新たな雇用創設（地元高齢者による作業）

『ディスカバー農山漁村の宝』の選定後は、マスコミ・報道関係からの取材もたくさん受け、テレビにも出演させていただくなど注目を浴びており、本当に問い合わせが増えました。ただ、注目される一方で新たな課題も見つかりました。実は、商品を置いていない村内の農産物直売所へもテレビを見た視聴者から結構問い合わせがあったそうです。私達の「和紅茶」がその直売所の方に知られていなかったこともあって紹介も出来ずに断りを入れているということがあったそうです。このような課題も見つかり、まずは村の人達にも私達の活動を知ってもらい、ささやかではあるがボランティアで「和紅茶」づくりに取り組んでいるということを周知しないといけないなと感じました。そして、誰でもどこに行けば商品を購入できるのか、そんな事も含めて幅広くお知らせするとともに、販路開拓も少なくとも村内の直売所では商品を置いていただき、更には周辺の道の駅などにも取り扱っていただけるような体制に持っていかねければと思っています。

○今後の展開方向等について

山添村に来てもらい、色んな事を体験して一生懸命交流して山添の良さを見て知っていただく。そして、これで良かったら住んでいただいても良いし、特に「和紅茶」をやってみたいといった人が現れたら大いにこちらはウェルカムで待っています。そのためにも農業体験では、山添村の主産業であるお茶を中心にした本地域の「和紅茶」をアピールし、「和紅茶」の手揉み体験の頻度をより高めて行く予定です。



定期的に行われるイベント参加者の皆さん

また、「和紅茶」生産においては、「紅管の奇跡の復活プロジェクト」を強力に推進して、山添村ならではの安心・安全で高品質なハイランドティーを充実させ、新たな「フレーバティー」の開発や販路開拓に取り組んで参りたい。私達の商品や活動がもっと知れ渡ってくれば少し気が早いかもしれませんが、「世界一の「和紅茶」を旗印に復活させるんだ！」という思いももっと広まり、「一度行ってみようか」、「ここで働いてみたい」、「農業をやってみたい」と、そんな若者がもっと出てくることを期待して新たな就農者の確保に繋げていきたいし、PRに努めていきたいです。



「かすがが一でん」の皆さん

(左から、向井事務局長、岩本さん、東会長)

訪問日時：平成 29 年 1 月 17 日 10:00～11:30

対応者：東会長、向井事務局長、スタッフ岩本氏、山添村植田課長ほか

訪問者：茂木地方参事官、松岡課長補佐

※「ディスカバー農山漁村の宝」に関する問い合わせ先 TEL:075-414-9050
近畿農政局農村振興部農村計画課 松岡、野村まで